

みらかホールディングス株式会社 2020 年 3 月期 上期決算説明会 主な質疑応答

[日 時] 2019 年 11 月 11 日 (月) 16:00~17:00

Q-1

- CLT 事業における消費増税による価格影響や、IVD 事業における増税前の駆け込み需要はあったか。

A-1

- これまでのところ、大きな影響は認識していない。

Q-2

- 大きく増収に貢献した遺伝子関連検査による利益貢献は。

A-2

- 遺伝子関連検査は変動費や外注比率が高いため、従来の特種検査に比べて利益貢献は限定的である。
- CLT 事業の利益率改善施策として、下期は従来の特種検査項目の拡販にも一層注力する。

Q-3

- CLT 事業において売上成長に比べて利益成長が弱く見える。減価償却費の増加や中国展開のための費用以外の要因があるのか。

A-3

- 利益率の低い遺伝子関連検査が増収をけん引し、利益率に影響を及ぼしたことが主因。ミックス変化による利益率の低下は課題として認識しており、改善に取り組む。
- コスト構造改善への取り組みの一つとして、検体の集荷・物流機能を分社化した。効率的な集荷・物流によるコスト削減効果は下期以降に発現する見込み。

Q-4

- IVD 事業において、日赤事業の契約終了影響は大口顧客で補完していけるのか。

A-4

- 日赤事業の契約終了による影響は、単一顧客ではなく、全体的な成長によって埋め合わせることを想定している。引き続き大型機を中心とした機器の設置を進め、ルミパルス事業における試薬の売上を伸ばしていく。加えて OEM・原材料事業もさらなる成長の柱になるべく取り組んでいる。

Q-5

- 特に海外において免疫機器市場はグローバルプレーヤーに収斂していく流れにあると思うが、みらかとしては中長期の見通しをどのように考えているか。

A-5

- 欧州・中国などは引き続き注力する一方、当社はOEMで試薬を供給していく形でグローバルプレゼンスを高め、成長を目指す。

Q-6

- 平安保険グループとのJVについて、開設が進められている中国各地の検査ラボにはルミパルスが設置されているのか。また、試薬販売は伸ばせるか。

A-6

- 平安保険グループが開設したラボに対しては必ずルミパルスを設置している。
- 試薬は販売しているが、現時点では未承認項目があるため、成果はまだ限定的。薬事登録に注力する。